

南極アイスコア等による古環境復元～2017年度の活動～

Paleoenvironmental reconstruction using Antarctic ice cores: FY2017 activities

*川村 賢二^{1,2,3}、植村 立⁴、本山 秀明^{1,2}、飯塚 芳徳⁵、堀内 一穂⁶、青木 周司⁷、東 久美子^{1,2}、藤田 秀二^{1,2}、関 宰⁵、平林 幹啓¹、中澤 文男^{1,2}、大藪 幾美¹、大野 浩⁸、津滝 俊⁹、阿部 彩子⁹

*Kenji Kawamura^{1,2,3}, Ryu Uemura⁴, Hideaki Motoyama^{1,2}, Iizuka Yoshinori⁵, Kazuho Horiuchi⁶, Shuji Aoki⁷, Kumiko Goto-Azuma^{1,2}, Shuji Fujita^{1,2}, Osamu Seki⁵, Motohiro Hirabayashi¹, Fumio Nakazawa^{1,2}, Ikumi Oyabu¹, Hiroshi Ohno⁸, Shun Tsutaki⁹, Ayako Abe-Ouchi⁹

1. 情報・システム研究機構 国立極地研究所、2. 総合研究大学院大学、3. 海洋研究開発機構、4. 琉球大学、5. 北海道大学、6. 弘前大学、7. 東北大学、8. 北見工業大学、9. 東京大学

1. National Institute of Polar Research, Research Organization of Information and Systems, 2. SOKENDAI, 3. Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology, 4. University of the Ryukyus, 5. Hokkaido University, 6. Hirosaki University, 7. Tohoku University, 8. Kitami Institute of Technology, 9. University of Tokyo

新学術の計画研究「南極氷床と気候の変動および相互作用」では、その目的の一部として、ドームふじや沿岸で掘削されたアイスコア、海底コアデータの解析から、南極及び全球の環境変動を復元する。特に、モデルの入力データとなる大気中CO₂や、温度復元のための水同位体や希ガス、放射強制力や物質循環に関わるエアロゾル、気候不安定性理解のためのメタン濃度を復元し、年代精度を高めたうえでのモデルや海底コアとの比較、海氷変動復元のためのプロセス研究などを推進する。本発表では、本プロジェクトに関する2017年度の主な研究・観測活動について報告する。

キーワード：アイスコア、古気候／古環境

Keywords: Ice core, Paleoclimate / Paleoenvironment